

会 議 記 録			
会議の名称	予算特別委員会		会議場所 全員協議会室 担当職員 山内、阿久根
日 時	平成27年3月17日(火曜日)	開 議	午前 10 時 00 分 閉 議 午後 4 時 20 分
出席委員	堤 山本 酒井 奥村 田中 並河 富谷 平本 小松 小島 竹田 明田 <西口議長、齊藤副議長>		
執行機関出席者	(あいさつ) 栗山市長、湯浅副市長、勝見副市長、坂井病院事業管理者、竹岡教育長、岸企画管理部長、門総務部長 <議会事務局> 藤村局長、山内次長、阿久根副課長 <政策推進室> 桂室長、竹村政策推進課長、柏尾政策推進課施策担当課長、加藤政策推進課主幹 <会計管理室> 中川室長、山田会計課副課長、松井会計課主幹、山口会計課管財係長 <企画管理部長> 岸部長、山本夢ビジョン推進課長、垣見夢ビジョン推進課副課長、山内秘書広報課長、片山人事課長、木村契約検査課長、畑契約検査課指導・検査担当課長、田中契約検査課副課長 <生涯学習部> 俣野部長、吉田市民協働課長、福田市民協働課市民活動推進係長、桂人権啓発課長、橋本人権啓発課副課長、中西人権福祉センター館長、大西保津文化センター館長、野々口スポーツ推進課長、篠部スポーツ推進課主幹		
事務局出席者	藤村局長、山内次長、阿久根副課長、坂田主任、三宅主任		
傍聴	市民 1名	報道関係者 0名	議員 6名 (石野、小川、奥野、菱田、三上、木曾)

## 会 議 の 概 要

10:00

### 1 開議

〔堤委員長 開議〕

<西口議長>

予算案は最も重要な議案審査である。十分審査願う。昨年の決算審査における事務事業評価の結果の予算への反映も十分確認願う。最終日には最良の意思決定ができるよう審査願う。

〔事務局長、副課長 日程、審査説明〕

### 2 第1号議案審査

10:08

〔市長等 入室〕

市長 あいさつ

<栗山市長>

新年度予算は第4次亀岡市総合計画～夢ビジョン～前期基本計画の仕上げと、マニフェストの完遂を念頭に置き、これらを集大成するとともに、市民との約束を果たし、更なる魅力と活力を見出すため予算を編成した。

15項目のマニフェストでは、最優先事業に掲げる学校施設耐震化事業、安全安心な暮らしに向けたセーフコミュニティの取り組みや交通ネットワークシステムの充実を図るためのコミュニティバス増車に係る関連経費等を計上するほか、土砂災害ハザードマップの作成や原子力災害に向けた安定ヨウ素材の購入を含む大規模災害における地域防災体制の強化、大規模スポーツ施設や亀岡駅北周辺整備による経済、観光の活性化とにぎわいのまちづくりなど、笑顔と幸せ実感都市を目指す予算を計上した。

財源については、長引く地域経済、雇用情勢の低迷により、歳入の根幹となる市税収入の減収を見込まざるを得ない厳しい状況であるが、サービスを低下させることなく安心して暮らしていただくため、一般財源の確保を最大限図り、基金の有効活用を措置している。このような対策を講じながら、夢ビジョンの実現に向け全力で取り組む。市制60周年を市民と祝い、夢と希望を抱きながら安全安心のまちづくりにたゆまぬ努力を続け、混迷する時代を乗り越え未来に輝く亀岡へと推し進めたい。賛同賜りたい。

〔市長等 退室〕

10:12

## 【議会事務局】

### 説明

< 議会事務局長 >

平成27年度は、新たな議員定数による第16期議員の初年度であり、これまでの議会活動を継承・発展させるとともに、さらに開かれた市民のための議会とするための大切な年であると認識している。

積極的な情報発信とともに、市民の意見や要望を集約し、多角的な議論の積み重ねによって、議決責任、説明責任を果たしていくことを目標に、議員人件費及び議会活動経費を計上している。

重点施策としては、議会報告会・意見交換会の開催 議会だよりの発行 インターネット中継の実施であり、昨年と同様の項目ではあるが、年を重ねるごとに活動の充実が図れるよう、限られた予算の中で取り組んでいきたい。

〔議会事務局次長 説明〕

### 質疑

< 並河委員 >

P1、インターネット中継業務の委託先は。

< 議会事務局次長 >

会議録研究所に、随意契約により業務を委託している。

### 委員間討議

なし

10:34

〔 休 憩 〕

〔政策推進室 入室〕

10:36

【政策推進室】

〔政策推進室長 出席職員紹介〕

説明

<政策推進室長>

バス交通関連経費に関しては、亀岡市地域公共交通計画に基づき、市民の利便性の向上、及び交通ネットワークの構築を促進するためのふるさとバス、コミュニティバスの運行経費を計上している。

また、JR千代川駅東側広場等整備事業費に関しては、駅周辺の整備を行い、安全安心の歩行空間ネットワークを重視した街づくりを進めるための経費である。その他、JR亀岡駅自由通路等施設管理経費や、事務的経費についても計上している。

なお、大規模スポーツ施設関連予算については、後日、他部局にまたがる予算内容を一括で説明させていただく予定としているので、よろしく願います。

〔所管課長 説明〕

質疑

<竹田委員>

JR千代川駅の東側ロータリー広場の整備と併せて、西側のバリアフリー化の方向性についても話が出ていたように思うが、その位置付けはどうか。

<政策推進課長>

JR千代川駅のバリアフリー化の改修については、東西同時に進めていきたいと考えているが、今後、JRとも協議を行いながら、基本計画の中で具体的に検討していきたい。

<竹田委員>

しっかりと進めていただきたい。(要望)

<田中委員>

企画推進経費について、市政における重要施策の調査・研究経費の内容は。

<政策推進課長>

市政における重要施策、特命事項等について、その都度、対応することとしており、要望・視察に係る旅費、調査費、需用費関係等の事務的経費を計上している。

<田中委員>

バス交通関連経費で、篠町以外の公共交通空白地域解消の目途は。

< 施策担当課長 >

亀岡市地域公共交通計画の中で、公共交通空白地域の整理・調整を行っていききたい。5年間の計画としているが、南部地域の東西別院町、特に東別院町については、早急に対応することとして、京阪京都交通と協議を行う中で、平成27年度に具体的な形が出せればと考えている。

< 田中委員 >

早急に方向性を出していただきたい。(要望)

< 平本委員 >

篠町でのコミュニティバスの試験運行について、1日に18便ということだが、平日、休日関係なく18便か。

< 施策担当課長 >

基本的には、平日、土・日関係なしと考えているが、今後、具体的に調整していききたい。

< 平本委員 >

試験運行の結果を踏まえ、使いやすいバス運行となるよう、要望しておく。

< 並河委員 >

市民からの、公共施設や病院へのバス運行要望への対応は。

< 施策担当課長 >

篠地区のコミュニティバス運行については、馬堀駅、市立病院を中心に考えているが、現在、整備中の北古世西川線の供用開始後は、亀岡駅から市立病院へのネットワークもつくっていききたい。

< 並河委員 >

北古世西川線が開通すれば、ここ1、2年ということか。

< 施策担当課長 >

北古世西川線は、現在、整備中ではあるが、供用開始後は速やかにと考えている。

< 山本副委員長 >

当初予算では、コミュニティバス経費のみ増額されているが、その他の地域でも協議が整い、試験運行ということになれば、補正対応も考えておられるか。

< 施策担当課長 >

協議が整った時点で、補正対応も検討したい。

< 奥村委員 >

バス運行に関しては、先ほどから市立病院の話が出ているが、市立病院だけでなく、民間の病院、スーパーなども含めて、市民生活の利便性の観点から考えていただきたいが、所見は。

< 施策担当課長 >

京阪京都交通との役割分担の中で、市が運行するバスについても、そのようなことを中心に考えていききたい。

< 明田委員 >

バス交通関連経費の中で、八木から旭町、神吉までを結ぶ地方バス路線の現在の利用者は。

< 施策担当課長 >

今、その数字を持ち合わせていないので、後ほど報告させていただく。

< 明田委員 >

当該路線に亀岡市が補助金を出す根拠は。

< 施策担当課長 >

基本的には、距離按分で補助金を出している。地方バス路線全体では9600万円の経費であり、運賃収入を差し引くと実質5100万円の負担となる。これを国1/3、府1/3、関係市1/3の割合で負担しており、このうち亀岡市の負担は、10.7%で、約1割の負担となっている。

< 明田委員 >

旭町をバスが通過することが、市が補助金を出す根拠ということによいか。

< 施策担当課長 >

旭町に停留所もあり、距離按分で費用を負担している。

11:00

### 委員間討議

< 並河委員 >

市民の要望に応じて、全市的な公共交通の充実に力を入れてほしい。

11:05

[ 休 憩 ]

[ 会計管理室 入室 ]

11:13

### 【会計管理室】

[ 会計管理室長 出席職員紹介 ]

#### 説明

< 会計管理室長 >

平成27年度の会計管理室の予算編成基本方針は、会計事務の適正化及び推進、普通財産の適正管理、利活用、及び処分の推進、公用車の安全運行及び適正管理運用としている。

会計管理室は1室1課であるが、その中に管財係、出納係の2係があり、また、公用車業務については、主幹を配置している。

平成27年度の予算総額は4,362万円で、平成26年度と比較して613万1千円の減額となっている。

[ 所管課長 説明 ]

#### 質疑

< 平本委員 >

普通財産の売却、利活用の状況は。

- < 会計管理室長 >  
市有財産の売却について、昨年は1億6000万円、その前は3億3000万円であったが、売却できる財産が少なくなっており、収入確保が厳しい状況である。
- < 田中委員 >  
収納手数料が、前年度より減少している理由は。
- < 会計管理室長 >  
税収も全体的に減少していることや、コンビニ収納の増加などがその理由として考えられる。
- < 田中委員 >  
財産管理システムに関わって、会計管理室で管理している財産の数は。
- < 会計管理室長 >  
市全体の財産を会計課で把握するのは難しい状況であるが、今、財産台帳として、その整理を行っているところである。
- < 田中委員 >  
財産管理システムには、行政財産も含めているのか。
- < 会計管理室長 >  
行政財産も含めた市全体の土地である。
- < 田中委員 >  
システム入力の実務先は。
- < 会計管理室長 >  
(株)パスコ京都支店である。
- < 田中委員 >  
(株)パスコはシステムを作っている業者か。
- < 会計管理室長 >  
システムを作っている業者である。
- < 酒井委員 >  
あと売却できる普通財産はどれくらいあるか。
- < 会計管理室長 >  
来年に3億4000万円を計上しているが、それ以外には大きな売却額となる普通財産はあまりない。
- < 酒井委員 >  
台帳管理システムは平成28年度を目途に整備するということであったように思うが、整備は進んでいるのか。
- < 会計管理室長 >  
台帳管理システムは平成18年度から導入し、その時点では18000筆の用地を予定していたが、平成25年度には、工事やほ場整備等により24300筆に増えており、入力にもう少し時間を要する状況である。
- < 酒井委員 >  
以前に、普通財産は約300筆という説明を受けたように思うが、その分だけでも把握して公開すれば、売払いが進むのではないか。
- < 会計管理室長 >  
普通財産については、広さや形状もまちまちであり、すべてが売却できるものではない。買ってもらえるような土地を選定して、順次、売却していき

いと考えている。

<明田委員>

公用車は178台で、会計課で管理運行している以外の、各課で管理している公用車は148台ということでよいか。

<会計管理室長>

一般会計対象車両が148台で、そのうち会計課が共用で持っているのが25台で、残り123台が各課の配属車両となっている。

<明田委員>

各課に配属の123台が適正に運用されているかについて、会計課のチェック機能は。

<会計管理室長>

消防車両50台を除いた各課の公用車について、日頃の運行は各所属長で管理をされているが、定期的な車検やタイヤ交換については、会計課で行っている。

<明田委員>

公用車が余っているように思うので、効率的な運用管理を要望しておく。

<会計管理室長>

共用車は80%の稼働率であり、公用車が余っている状況とは考えていない。

<並河委員>

公用車の更新は、年間で何台くらいか。

<会計管理室長>

予算的には、財政課との協議の中で、平成25年から平成27年の期間で、毎年600万円を予定しており、軽車両で平均5~6台である。

<田中委員>

財産売払収入で、東つつじヶ丘の市営住宅跡地の約2億円を除いた1億4000万円について、主な内容は。

<会計管理室長>

主なものとして、保育園用地の売却を予定している。

<明田委員>

公用地の売却で、国から移管された農道・里道等は隣接者に払い下げは可能か。

<会計管理室長>

国から移管を受けた里道・水路等は法定外の土地で、所管は土木管理課となっているが、隣接者に対して、用途廃止をした後、売却は可能である。

<酒井委員>

保育園用地の売却ということだが、そのような土地があるのか。

<会計管理室長>

現在、保育園に貸し付けている市の用地について、売却するものである。

<酒井委員>

今後は、財産売払収入をあまり見込めないという理解でよいか。

<会計管理室長>

今、普通財産で売却できる大きなものは減っている状況である。

<奥村委員>

普通財産で大きなものは野水池(駐車場)もあるし、他にもある。何も無い

ような説明をされるのはおかしいのではないか。

< 会計管理室長 >

大きなまとまった土地の件数は多くない。また、調整区域であったり、地元との調整事項等により、すぐに売却できない土地もある。

< 奥村委員 >

売るだけでなく、有効利用を考えていく必要がある。また、売り方についても、分割で売っていく等の考えはあるか。

< 会計管理室長 >

東つつじヶ丘の公園・集会所用地は、今年度に入札を行い、1億3000万円の収入を得ている。市営住宅跡地については、その一部が道路事業の代替地となっていたため面積が確定せず、売却には至らなかったが、平成27年度には売却したいと考えている。また、売るばかりでなく貸借により収入を得ることも併せて考えている。

## 委員間討議

なし

11:52

[ 休 憩 ]

[ 企画管理部 入室 ]

13:00

## 【企画管理部】

[ 出席職員自己紹介 ]

### 説明

< 企画管理部長 >

平成27年は、亀岡市が昭和30年1月1日に誕生してから60年にあたり、慶賀を祝う記念の関連事業実施をはじめ、第4次総合計画 夢ビジョンの後期基本計画の策定、公共施設等総合管理計画 ファシリティマネジメントの策定、また、教育委員会制度の改正に伴う総合教育会議の設置など、次期制度に向けた取り組みを開始する年度となっている。

さらには、昨年末に閣議決定された、まち・ひと・しごと創生総合戦略を受けて、これに向けた新たな取り組みも当部の主要施策となっている。

なお、総合戦略策定に係る予算は、平成26年度補正予算を繰り越して執行するものである。

進みゆく深刻な人口減少問題に対して、土地利用による都市基盤の整備、新たな雇用の創出によるものづくり産業の振興、子育て支援の充実等、人口誘引施策により、まずは現状に歯止めをかけ、夢ビジョン基本構想に定める定住人口10万人を目指すものである。

併せて地域経済縮小の克服も総合戦略に課された大きな課題である。所管は異なるが、これに対する手立ての一環として、プレミアム商品券の発行による地域の消費喚起など、地域経済刺激策を実施することとしている。

平成23年1月に市民の協働と参画により策定した第4次亀岡市総合計画については、平成28年度を初年度とする、平成32年度までの後期基本計画の策定に入る。また、地域課題や市民ニーズに迅速に対応するための組織体制の整備強化についても、しっかりと進めていきたい。

重点施策の取り組みについては、夢ビジョン後期基本計画の策定、市制60周年記念関連事業、公共施設のファシリティマネジメントによる施設等総合管理計画案の策定、総合教育会議の設置・運営、職員倫理の確立と更なる能力開発による組織力の向上の5点を掲げ、これらの事務事業の完遂に向け、全力で取り組むこととしている。

その他一般経常経費については、引き続き削減に努めるとともに、各種の事業施策の推進においても選択による集中を基本に再検証を行い、知恵と工夫を生かして真に事業効果を見込める予算として編成した。当部の担う役割から、組織、マネジメント改革と職員の意識改革と併せ、簡素で効率的な行政運営を図る予算を念頭に置いて、編成に心掛けたものである。

なお、当部に対する指摘要望事項はなかった。

#### 〔所管課長 説明〕

#### 質疑

<平本委員>

職員研修は、年間何回実施されているか。

<人事課長>

市が実施する研修と、研修機関に派遣する研修とがある。派遣研修については、詳細は決定していない。市が実施する研修については、新規採用職員研修、段取り力研修、法制執務研修、コーチング研修、メンタルヘルス研修といったものである。

<酒井委員>

職員研修費が減少しているが、人的資源管理の観点から効果的に使われているか。

<人事課長>

費用をかけることのみを求めるのではなく、各人が持てる能力を次の世代に引き継いでいくことが大事であり、現在いる職員が、しっかりと若年層に知識・経験を伝えていくことができる研修にも取り組んでいきたいと考えている。

<並河委員>

予算説明書P210、特別職の退職金の積算根拠は。

<人事課長>

市長については、月額給×5.5×年数(4年)で、金額にして2167万円である。

副市長については、月額給×3.25×年数(4年)で、金額にして1023万1千円である。

<並河委員>

府下の他市と比べてどうか。

<人事課長>

他市の支給割合に、ほぼ準じるものと考えている。

< 並河委員 >

以前に同様の質問がされた際、宇治市の方が人口は多いのに、金額的に亀岡市の方が、かなり高額ではないかという指摘があったように思うが。

< 人事課長 >

今、宇治市の金額は把握していないが、各市との比較で大きな順位の変動はなかったように思う。

< 田中委員 >

職員の健康管理の状況で、心の病気で休んでいる人は何人くらいいるのか。

< 人事課長 >

休職者数は2名、うち1名が心の病で休んでいるが、近々職務復帰ができるところまで回復しているという報告を受けている。

健康管理への対応としては、産業医の委嘱により月2回の健康相談を実施するとともに、メンタルヘルス研修の実施により、お互いが気遣いのできる職場環境づくりに取り組んでいるところである。

< 小松委員 >

地域こん談会の実施について、現在、平日以外の土・日、また、夜間に実施されているか。

< 秘書広報課長 >

現在は、平日の日中のみの実施である。

< 小松委員 >

土・日、夜間の実施について検討はされているか。

< 秘書広報課長 >

検討はしているが、休日等は公務で理事者の調整がつかないので、今のところ、平日の実施で考えている。

< 小松委員 >

平日は、役員が集まるのが難しいので、土・日、夜間の実施について考えていただきたい。(要望)

< 酒井委員 >

退職手当債の3億円について、将来の人件費により財源が確保される見込みがあって発行されているのか。

< 人事課長 >

退職手当債の償還については、これまでに人員削減を行ったものも、その財源に充てることができることされており、平成22年に策定の定員適正化計画に基づく人員削減分が充当できるものと考えている。

< 酒井委員 >

将来的な充当財源の見込みがあるわけではないのか。

< 人事課長 >

定員適正化計画を基本として職員採用等を行っていくので、これまで以上に人員が増加することにはならないので、その分が人員削減にあたり、償還財源に充てられると考えている。

< 酒井委員 >

地方版総合戦略策定経費は計上されているのか、あるいは今後出てくるのか。

< 夢ビジョン推進課長 >

当該経費は、平成26年度の3月補正で700万円を計上し、全額繰り越して執行する予定である。

<酒井委員>

総合計画とは切り離して策定していくのか。

<夢ビジョン推進課長>

どちらも、亀岡市の将来を担う大きな計画であり、総合計画の後期基本計画と整合を図る中で進めていきたい。

<酒井委員>

公共施設等総合管理計画について、委託する部分と自前でする部分が出てくると思うが、どこまでを委託されるのか。

<夢ビジョン推進課長>

プロポーザルにより業者選定をしていくこととして、その中で、施設に係るデータベースの作成や、施設利用に係る市民アンケートについては業者委託を考えている。一定、計画案がまとまった段階から、職員での対応を考えている。

<酒井委員>

一定、計画案がまとまった段階ということは、計画を立てるのは委託ということか。

<夢ビジョン推進課長>

事前の調査部分については委託し、計画策定部分については庁内、庁外を含めて考えていくこととしている。

<酒井委員>

各施設のデータベース作成により一元化された情報は、ゆくゆくは公開されるということでしょうか。

<夢ビジョン推進課長>

広く市民にも情報を共有していただくということで進めていきたいと考えている。

<並河委員>

P3、平和の取り組みについて、市制60周年記念事業としてピアノコンサートをされるということだが、今年は戦後70年の年でもあり、また、亀岡市は非核平和都市宣言も行っていることから、平和についてさらに充実した取り組みの考えはないか。

<秘書広報課長>

亀岡市では、今までから他市に負けないくらいの平和事業を実施しており、今後も、その内容をより一層充実させていきたいと考えている。

<酒井委員>

行政改革推進委員会の会議録について、平成25年度以降の分が見当たらないが、公開の状況は。

<夢ビジョン推進課長>

会議録の取りまとめが遅れ、公開できていない部分があるが、公開に向けて早急に対応していきたい。

<酒井委員>

ホームページの運用システムについて、リニューアルされるということだが、以前にも内容をわかりやすく整理してほしいと指摘させていただいたが、改

善がみられない。全体としてどのような管理をされているのか。

< 秘書広報課長 >

各課に内容の整理を願っているが、今後も徹底していきたい。

< 酒井委員 >

リニューアルの際に、中身の管理もしっかりとしていただきたい。(要望)  
地域こん談会には大変な労力と人件費がかかっており、また、参加者の満足度もあまり高くないと聞いているが、他の方法等の検討はされているか。

< 秘書広報課長 >

地域こん談会は市と地域の皆さんとの共催と考えている。以前にアンケート調査も実施し、その上で自治会連合会としても年1回は実施するという決定をいただいている。ただ、内容については、改善できることは改善していきたいと考えている。

< 企画管理部長 >

平成24年4月の自治会長会で、地域こん談会を議題とさせていただき、一部の方からは2年に1回でもよいという意見をいただいたが、統一的な対応を自治会長にお尋ねしたところである。平成24年度は一部の町で実施されなかった所もあったが、平成25・26年度は一地区を除いて全町で実施されている状況である。

< 酒井委員 >

地域こん談会の目的、効果は。

< 企画管理部長 >

地域からの要望をいただいているところである。6月定例会後に実施をし、9月補正予算で間に合うものは対応しており、効果は上がっていると考えている。

< 奥村委員 >

シンボルプロジェクトについては、後期も考えておられるか。また、そのメンバーは同じか。

< 夢ビジョン推進課長 >

後期も実施を位置付けていきたいと考えている。メンバーは、現在、市職員も含めて約40名となっているが、その実施形態等を考慮し、メンバー構成を考えていきたい。

< 奥村委員 >

P3「“ヒロシマ”に学ぶ親子平和の旅」について、負担金はとられているか。

< 秘書広報課長 >

親子2人で、平成26年度までは2万円、平成27年度からは2万5千円となっている。トイレ付バスとしたことによって負担金はアップしている。

< 奥村委員 >

歳入はどこに計上されているか。

< 秘書広報課長 >

実行委員会形式となっているので、負担金は実行委員会に入ることとなり、市の支出が予算に計上されている。

< 奥村委員 >

自治振興式典の音響等で112万円計上されているが、それだけの経費をかける必要があるのか。

< 秘書広報課長 >

60周年ということで、参加者が例年400人のところを800人で予定していることから、コンベンションホールに場所を移動することとなり、ステージ設営等に費用がかかってくる。

< 富谷委員 >

自治振興式典について、60周年ということで表彰者も増えるのか。

< 秘書広報課長 >

参加者は400人から800人増えるが、表彰は規定に基づき行うので、60周年で表彰者が増えるということではない。

< 富谷委員 >

一度表彰を受けた人が、重ねて表彰されることはあるか。

< 秘書広報課長 >

同じ表彰を重ねて受けることはないが、別の表彰を受けることはあり得る。

< 田中委員 >

入札関係で、市内の業者を育成するという観点から、条件等で配慮はされているか。

< 契約検査課長 >

工事の場合は、条件付き一般競争入札であっても、ほぼ市内業者に限定しており、また、測量委託等については、市内に業者がない場合は市外の業者対応としている。そういった点では、市内業者を優遇しているといえる。

< 田中委員 >

退職者が多い状況となっているが、再任用や外郭団体への就職に関して、在職期間の基準はあるのか。

< 人事課長 >

再任用職員は、年金が支給される65歳までの間で希望に応じてということになっている。外郭団体の任用状況は把握できていない。

< 田中委員 >

市役所を退職されて、外郭団体に就職されている人の雇用期間を把握されていないのか。

< 企画管理部長 >

外郭団体へ行っておられる方は、管理職経験のある方であり、それ以外は最長5年の再任用制度で対応している。外郭団体等へ行かれた方の任用期間は、最長でも3年とか2年となっている。

< 田中委員 >

年金支給の関係でいえば、2年や3年では不十分であり、安心して働けるようにする必要があると思うので、よろしく願います。(要望)

## 委員間討議

なし

14 : 12

[ 休 憩 ]

〔生涯学習部 入室〕

14 : 30

## 【生涯学習部】

〔生涯学習部長 出席職員紹介〕

### 説明

<生涯学習部長>

第4次亀岡市総合計画に基づき、人間の尊重を基本に生涯学習で培った市民力を糧に、参画と協働を事業推進の基本理念とし、27年度事業を展開する。重点施策は、第2次まちづくり協働実施計画に基づく市民協働の推進、生涯学習の推進、市制60周年事業として3姉妹都市、1友好都市の招聘、地球環境子ども村事業の展開と交流会館の活用、文化センター・児童館の3中核館化体制へのスムーズな移行、男女協働参画計画の推進と虐待・DV等への対応、第1回京都亀岡ハーフマラソンの実施と生涯学習スポーツの推進である。

それぞれの具体的方策は、市民参画活動を促進する支援金制度の充実、定着を図り、市民活動推進センターの活用を一層促す、生涯学習財団による魅力ある事業の展開、クニッテルフェルト市と姉妹都市・友好都市の本市訪問団を受け入れ市民交流を促進したい、文化面では亀岡祭あかりの演出を昨年引き続き実施、地球環境子ども村事業の推進と他部局との連携を図り事業の充実、文化センター・児童館の3中核館を拠点にスムーズな体制移行と事業展開、とりわけ新たな視点による地域の安全安心セーフティネットの取り組みを考えたい、男女共同参画のさらなる推進、意識調査の結果による対応を進める、男女共同参画、DVについて啓発を行う、ハーフマラソンの実行委員会との連携による大会実施、生涯スポーツの推進に関わり、全国大会等出場激励金の支給、犬甘野市民プールはH27年度から運営停止を行う。

14 : 37

〔所管課長 説明〕

15 : 02

### 質疑

<平本委員>

P1、亀岡会館の有効活用の計画は。

<市民協働課長>

市全体で公共施設のあり方を検討する公共施設等総合管理計画をH27年度に策定する。H28年度には長寿命化、統廃合等を検討する。亀岡会館の有効活用、存廃はこの内容により検討していく。H27年度は安全対策としてバリケード設置工事を計上している。

<小島委員>

P1、ゆうあいフォーラム実行委員会の構成団体の男女構成比は。

<人権啓発課長>

昨年までは女性ばかりである。届けのある団体、女性の登用団体から募集し、参画いただいている。今後は男性も参画されるよう考えていきたい。

<小島委員>

H19、20年度に実行委員として参加したが、男性は1人だった。男女共同参画事業なので、男性参加の方向を見出してほしい。

P8、国際広場テニスコート補修経費はハードコートのラバーコーティングか。

<スポーツ推進課長>

そのとおりで、表層の修繕を考えている。

<小島委員>

以前から要望があった。年次ごと安全面で考えていってほしい。

<竹田委員>

P1、大学地域活動等支援補助金は50万円減額され半額になっている。理由は。

<市民協働課長>

以前は大学生、大学院生を対象にしていた。大学院生の応募実績が少なくなり見直した。

<竹田委員>

市の働きかけはどうだったのか。

<市民協働課長>

大学の学生支援の部署を通じて募集した。学園大はキャンパスを京都市内に広げられる。広報を工夫したい。

<竹田委員>

若い学生たちと行政との交流は有効である。しっかり取り組まれない。

P7、スポーツ競技全国大会等出場激励金と過去の激励金との違いは何か。

<スポーツ推進課長>

教育委員会予算では中学生の全国大会出場に補助金を交付している。今回は初めてで、学校教育以外での出場の場合である。

<竹田委員>

金額がもっとあればよい。今後状況を見ながら改善を図られたい。

P8、維持補修の基本的な考えは。

<スポーツ推進課長>

所管する2施設は建設時期が同じ頃で、いずれも経年劣化による修繕が必要である。順次年ごと計画を立て整備を図る。H27年度はtotoスポーツ振興助成金で医王谷野球場の修繕を検討している。助成がなくても補修ができるよう考える。

<竹田委員>

使いやすさを追求してほしい。

<明田委員>

P1、亀岡会館運営に関連して中央公民館継続とのことであったが、内容は。

<市民協働課長>

教育委員会所管のため明確に答えられない。

<明田委員>

中央公民館は亀岡会館に連結している。亀岡会館が亀岡地区城下町からなく

- なるのは考えられない。皆落胆している。今後の検討は。
- < 市民協働課長 >  
H 2 7 年度公共施設等総合マネジメント計画で基本方針を定める。H 2 8 年度はその計画に基づき、施設の更新、統廃合、長寿命化の検討を行う。その結果で会館の存廃を考える。
- < 明田委員 >  
会館が文化ゾーンの中心からなくなるのは考えられない。強く要望しておく。
- < 並河委員 >  
P 1、男女共同参画事業において、DVで相談を受け適切な場所に確保したことはあるのか。
- < 人権啓発課長 >  
事例はある。施設は京都市内にある。その時には警察も入り対応した。
- < 並河委員 >  
女性相談事業の相談内容は。
- < 人権啓発課長 >  
離婚、DV、嫁姑関係など。
- < 並河委員 >  
男女共同参画事業、啓発パンフレットの内容は。
- < 人権啓発課長 >  
H 1 8 年度に意識調査を行った。H 2 6 年 1 0 月 1 日を基準に市内 2 , 0 0 0 人に抽出アンケートを実施した。その結果を後期計画に反映したい。
- < 田中委員 >  
交流会館の利用状況は。
- < 市民協働課長 >  
H 2 5 年度 2 7 2 件、4 , 4 5 2 人。
- < 田中委員 >  
歳入は 1 0 万円であるが、H 2 7 年度の見込みは。
- < 市民協働課長 >  
H 2 5 年度 2 月末も H 2 6 年度 2 月末も大差なく利用されている。
- < 田中委員 >  
P 3、性同一性障害の問題に対する検討、取り組みは。
- < 人権啓発課長 >  
ジェンダーフリーの立場で啓発していきたい。特別それだけを捉えてはいない。
- < 田中委員 >  
市の啓発は必要である。  
H 2 6 年決算審査（事務事業評価）で文化センター 3 館集約化について議会は意見を述べた。対応は。
- < 人権啓発課長 >  
2 0 1 2 年 3 月定例会で市長が 3 館集約化の方針を述べた。集約される犬甘野児童館、馬路文化センターについては地元に入り、H 2 7 年度からの体制含め協議している。H 2 7 年度で目に見える集約化、職員配置、事業の取捨選択の位置付けのなかで考えている。
- < 田中委員 >

- 隣保館デイサービス事業の利用数は、事業によりどれだけ交流が図れたのか。
- < 人権啓発課長 >  
周辺地域との交流である。参加者数は今報告出来ない。
- < 田中委員 >  
後ほど資料を提出願う。  
P 5、ガレリアかめおか 2 億円強の委託料の内訳は。
- < 市民協働課長 >  
人件費、光熱水費、総合管理の設備等保守点検、電話代等施設の管理経費である。
- < 田中委員 >  
それぞれの金額が聞きたい。
- < 市民協働課長 >  
人件費は 5 4 1 8 万 9 千円、施設管理経費が 1 億 6 2 3 1 万 1 千円、うち光熱水費 6 5 0 0 万円、総合設備点検費が 7 5 0 0 万円。
- < 田中委員 >  
人件費は財団への補助金にも入っているのではないか。
- < 市民協働課長 >  
事業を企画運営するための人件費である。
- < 田中委員 >  
二重計上はないと思うが、執行をしっかりとしてほしい。  
P 8、国際広場球技場、野鳥の森の賃貸料は前年と比べてどうか。
- < スポーツ推進課長 >  
国際広場球技場は H 2 9 年 3 月まで契約している。昨年同様、坪単価 3 3 0 円で計上している。野鳥の森は H 2 7 年 3 月 3 1 日で契約が切れる。財産区と協議しており、坪単価 1 6 8 円を 1 3 0 円で、H 2 7 年 4 月から 2 年間契約する予定である。
- < 富谷委員 >  
地球環境子ども村の小中学生の利用状況は。
- < 市民協働課長 >  
地球環境子ども村から学校に出向き出前講座をしている。また、子どもたちが地球環境子ども村に来て、ディスカバリールーム等のジオラマの展示を見られている。環境を学ぶ場として提供している。
- < 富谷委員 >  
自然体験、生活体験も実施しているのか。広報は。
- < 市民協働課長 >  
ホームページ、おしらせ版で広報している。夏の星空観望会等の実施も広報している。
- < 富谷委員 >  
有効に利用願う。
- < 酒井委員 >  
ゆう・あいフォーラムでブースを出す団体の入れ替わりはあるのか。
- < 人権啓発課長 >  
毎年同じ団体もあるが、新たな形で展開している。
- < 酒井委員 >

内容が男女共同参画に合っていないものもある。

< 人権啓発課長 >

運営委員会でも検討中である。男女共同参画の視点で参加してもらっている。

< 酒井委員 >

他の事業との違いが分からない。ヒューマンフェスタと看板を分ける意味が分からない。検討は。

< 人権啓発課長 >

4年ほど同日開催している。両方に寄ってもらえるよう同日開催にしている。

< 酒井委員 >

同日開催はよいが、参加者にとっては1つの看板でよいと思う。これからも同様に開催するのか。

< 人権啓発課長 >

財政厳しく補助金に頼っている。補助のなかで人が寄ってもらえる方法を考え、同日開催がベターだと判断した。

< 酒井委員 >

P3、人権啓発推進協議会活動補助等で209万4千円計上されており、教育委員会でもP14で70万円計上されている。根拠が聞きたい。

< 人権啓発課長 >

人権啓発推進協議会に対して活動補助、事業補助に分けて補助している。生涯学習部は活動補助に対して補助金を出している。

< 酒井委員 >

根拠は何か。

< 人権啓発課長 >

補助金等交付規則に基づいている。

< 酒井委員 >

透明性が確保されているのか。事業の内容、効果も市民に明らかにするべき。

< 人権啓発課長 >

補助金等交付規則でカバーできないことは、内規で整理したい。

< 酒井委員 >

内規では市民から見えないので見える形で整理されたい。考えは。

< 人権啓発課長 >

内規で考えている。

< 並河委員 >

P5、ギャラリー施設はレストランの営業がされず、アトリオが販売を拡げられている。レストラン、喫茶店は必要だと思う。

< 市民協働課長 >

この春に向けてレストランが開けるよう調整が進んでいると聞いている。

< 奥村委員 >

P1、亀岡会館運営管理費は委託をするのか。費用の内容は。

< 市民協働課長 >

市直営で管理する。経費は主に冷暖房設備の重油代、電気代、設備保守点検等の費用である。

< 奥村委員 >

P2、姉妹都市等を訪問する場合は参加者の自費であるが、招聘の場合は市

- が負担する。今の時代に不要ではないのか。1週間の滞在で500万円を使うのはどうか。
- <市民協働課長>  
昨年度クニッテルフェルト市50周年市民訪問団では、旅費は参加者負担にしている。今回は公式訪問である。
- <奥村委員>  
今の時代に、海外から呼ぶ価値があるのか。
- <市民協働課長>  
公式に来てもらい、国際交流協会と連携をするなかで市民との交流を考えている。
- <奥村委員>  
後の委員間で討議したい。要らないと思う。  
P6、体育協会職員人件費について、地域団体が一部を持つ考えは。
- <スポーツ推進課長>  
今のところない。H26年度は市の再任用職員2名を含んでいる。
- <奥村委員>  
体育団体活動助成3380万円はとても大きく感じる。人件費の2877万8千円は大きな負担である。本来は地域団体にたくさん補助金を渡して団体が人件費を出すべきである。
- <スポーツ推進課長>  
体育協会と協議する。協議団体、地域団体に活動等助成している。
- <奥村委員>  
予算書P9、文化センター運営経費の事業委託料の内容は。
- <人権啓発課長>  
業務委託は夜間管理、休日等管理、関西電気保安協会、セコム、エレベーター等の点検である。
- <奥村委員>  
夜間管理の委託先は。
- <人権啓発課長>  
東部文化センターはシルバー人材センターに委託している。馬路は区への委託も考えている。
- <奥村委員>  
今後は区の管理がよい。
- <竹田委員>  
P1、女性相談事業、DV相談はワンストップで終わるのか。
- <人権啓発課長>  
人命に関わることはワンストップで対応している。
- <竹田委員>  
京都府の家庭支援センターにつなぐことになるのか。
- <人権啓発課長>  
市又は警察からつないでいる。
- <竹田委員>  
女性電話相談は午前11時から午後4時までである。何故か。
- <人権啓発課長>

- その時間外は留守電で対応している。
- < 竹田委員 >  
午前 11 時なら市役所はとうに開いている。切羽詰まった相談もある。幅広い対応を望む。
- < 人権啓発課長 >  
時間外は職員が対応する。
- < 小松委員 >  
P 2、かめおか市民活動推進センター管理運営はどう変わったのか。
- < 市民協働課長 >  
H 26 年度から仕組みを変え、相談体制を強化、各種講座の開設を工夫凝らし実施している。
- < 小松委員 >  
市民にしっかり伝えてもらいたい。  
P 2、住民交流推進経費 12 万 5 千円の内訳は。
- < 市民協働課長 >  
隣接の市区町（西京区）との交流に関わる事務経費である。
- < 小松委員 >  
交流会館の有効活用を望む。
- < 山本副委員長 >  
P 3、地域交流促進経費、昨年 9 月決算審査において、東部文化センターの休日開館と 3 館体制について H 27 年度予算に反映すると聞いたが、見られない。H 27 年度には必ず反映をしてもらいたい。東部文化センターを休日開館事業に入れたいとのことである。どこに入れているのか。4 月から実施するのか。
- < 人権啓発課長 >  
文化センター運営経費に入れている。  
予約は 3 カ月前からなので 4 月からは出来ないが、早い段階で対応したいと考えている。
- < 山本副委員長 >  
周知願う。  
P 5、ガレリア道の駅の利用もある。H 26 年度予算でトイレの洋式化を要望した。今年度 1 基設置されたが、その後進むのか。
- < 市民協働課長 >  
男女各 1 基設置で終了した。ガレリア内のトイレもある。
- < 山本副委員長 >  
これで終わりではなく、希望が多いので洋式化を進めてほしい。
- < 市民協働課長 >  
計画的にしていこうことになると思う。
- < 堤委員長 >  
P 6、体育団体助成金 3380 万円、体育協会会長が行事参加する際の報酬、ガソリン代が出ていない。予算は計上されているのか。
- < スポーツ推進課長 >  
報酬は月 2 万円で組んでいる。
- < 堤委員長 >

月読橋上のグラウンドは土が痩せている。根本的な修繕を。予算は組まれているのか。

< スポーツ推進課長 >

修繕費で土購入を考えたい。指定管理者の体育協会での修繕も考えられるので対応する。

16:00

## 委員会討議

< 堤委員長 >

意見を。

< 田中委員 >

性同一性障害者を人権問題と考えていなかったように思う。基本的な考えを聞きたい。

文化センターの3館集約化を明確にするべき。

ギャラリーかめおかの委託経費は巨額である。削減の方向で見直すべき。

< 奥村委員 >

公費で外国の方を呼ぶのはどうか。

< 堤委員長 >

60周年事業で姉妹都市・友好都市交流市招聘の公費支出はどうかという意見について、どう思うか。

< 田中委員 >

観光費で、外国人観光客誘致にも500万円計上されている。過去招聘した効果が明らかにされればと思う。

< 生涯学習部長 >

内訳は、宿泊代と亀岡市内の移動代、食事代である。スティルウォーター市から30周年事業に招待されており、その際数人分の宿泊代は負担するとされている。次のステップである市民交流に踏み出していきたい。文化、野菜、景観を姉妹都市に伝えて世界に亀岡を発信していきたいと強く考えている。

< 明田委員 >

亀岡会館は今日まで亀岡地区の地元住民が協力してきた。行く末を見守ってほしい。またあの地でなんとかと言う思いで今後も要望していく。

< 堤委員長 >

歴史のあることであり、委員の思いを含み今後検討願う。

< 生涯学習部長 >

公共施設マネジメントで全市的に検討する。時間をかけ議論していく。

< 明田委員 >

あまり時間をかけずに検討願う。

< 酒井委員 >

「予算(案)の概要」P11、60周年事業のなかでも姉妹都市・友好都市交流4市招聘事業(仮称)510万円は多額である。財政に余裕があればよいが、財政厳しく、普段の事業も周年事業にあげている状況である。公式訪問団だから公費を出すとのことだが、市民を招く形でもよいのではないかと思う。

人権関係事業が整理されていない。教育部とまたがった事業があり、その整理

が進んでいないことに委員の意見を聞きたい。教育部P14の人権教育経費、人権教育推進経費と生涯学習部の事業経費との見分けがつかない。

< 奥村委員 >

組織上の問題もある。他市は全て教育委員会の事業である。本市はガレリア建設以来、生涯学習に力を入れるため生涯学習部が設置された。事業はどちらにとっても必要なものである。整理を検討しながらやればよい。

< 酒井委員 >

事業は必要だと思うが、分けているのはどうか。教育部の職員が減り仕事もどちらかに寄せればよいという印象があったので、整理が進まない理由が分からない。人権啓発誌「ゆう・あいネット」も「きずな」も分けて発行するのはなぜなのかと思う。

< 堤委員長 >

酒井委員の意見に他の委員は意見がないか。 意見なし

< 酒井委員 >

分けても内容が変わらない。講座、研修の目的、内容は全く違うものなのか。

< 人権啓発課長 >

補助事業の出どころが違うので分けている。

< 酒井委員 >

市民団体との協働のための支援金を交付されている。その他の補助金は内規でされているとのことである。明らかにすべきである。委員の意見を聴きたい。

< 奥村委員 >

府は補助金をインターネットで明らかにしたり、発表の場も設けられている。本市も成果を徐々に知らせるべきである。補助金は市で実績を精査しておくべき。

< 酒井委員 >

募集公開、成果発表をしたら同じような事業は切られてしまう。同じことをやっても、成果がなくても補助がもらえるのなら、透明性がない。これからの課題と皆は考えているのか。

< 竹田委員 >

補助対象の決め方のことを言われているのか。

< 酒井委員 >

決め方だけでなく、内容も成果も市民に明らかにしないといけない。

< 田中委員 >

実績報告で成果があげられる。それをどう点検し、どう公表するのは行政側の問題である。それはやるべきことである。

< 堤委員長 >

努力が必要である。

〔生涯学習部 退室〕

16 : 18

〔事務局長 翌日の日程説明〕

<堤委員長>

本日の日程を終了し、散会する。

散会 16:20